

スーパーマーケット景気動向調査

2022年1月調査結果（12月実績）
（2022年1月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅に悪化

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.5の39.2、見通し判断は前月から-1.6の34.1となり、ともに前月から小幅な悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIともに前月からマイナス幅をわずかに縮小した。畜産相場や水産相場の高値傾向による生鮮品仕入原価DI、原材料価格高騰による値上げで食品仕入原価DIがいずれも二桁プラス域で高止まりしている。それに伴い販売価格DIや客単価DIにも上昇傾向がみられた。

カテゴリー動向調査では、感染症の落ち着きによる外出増加、内食需要減少の影響を受け休日の客数減なども見られたが、クリスマスや年末商戦は好調に推移し、好不調まちまちの結果となった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべての景況感DIが低水準で推移しているが、今月も小幅な変化にとどまっており、これまでのトレンドに大きな変化はみられていない。（長期傾向についてはP11参照）

年末までは感染症は落ち着いた状況が続いていたが、年明けから再び増加に転じており、内食需要が高まる可能性もある一方で、世界的な物価高騰の影響が国内にも波及しており、ガソリンや灯油の価格高騰に寒波も押し寄せ、消費者心理が上向きになる状況にはほど遠い。感染症の拡大状況によっては、生産や物流への影響、そして店舗での人員不足も懸念され、営業継続のための判断が迫られるケースも出てくる可能性がある。食のライフライン維持のため、食品産業が一体となって乗り越えたい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：39.2 (-0.5) 前月：39.7	消費者購買意欲DI 当月：41.3 (+0.8) 前月：40.5	周辺地域 競合状況DI 当月：40.8 (+0.6) 前月：40.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：42.2 (+0.2) 前月：42.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：34.1 (-1.6) 前月：35.7	消費者購買意欲DI 当月：38.2 (-1.2) 前月：39.4	周辺地域 競合状況DI 当月：38.6 (+0.3) 前月：38.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：41.4 (+0.4) 前月：41.0
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-12.2 (+3.2) 前月：-15.4	客単価DI 当月：4.1 (+6.1) 前月：-2.0	来客数DI 当月：-17.4 (-3.0) 前月：-14.4	
収益DI 当月：-14.5 (+1.3) 前月：-15.8	販売価格DI 当月：8.0 (+3.3) 前月：4.7	生鮮品仕入原価DI 当月：11.8 (+0.4) 前月：11.4	食品仕入原価DI 当月：11.4 (-2.7) 前月：14.1

カテゴリー動向

青果DI 当月：-11.0 (+8.8) 前月：-19.8	水産DI 当月：-12.3 (+1.2) 前月：-13.5	畜産DI 当月：-17.6 (-0.9) 前月：-16.7	
惣菜DI 当月：8.3 (+1.2) 前月：7.1	日配DI 当月：-11.6 (-3.1) 前月：-8.5	一般食品DI 当月：-15.7 (-5.9) 前月：-9.8	非食品DI 当月：-17.4 (-2.8) 前月：-14.6

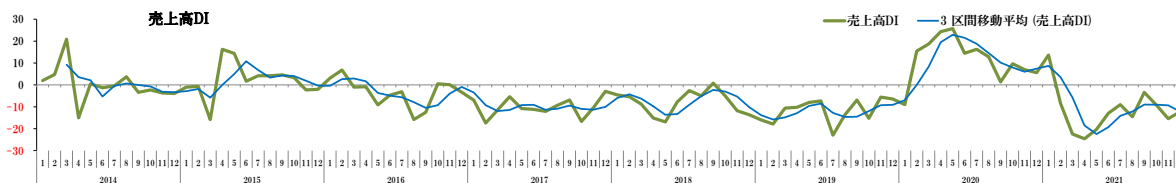
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

マイナス幅縮小も二桁マイナスが続く

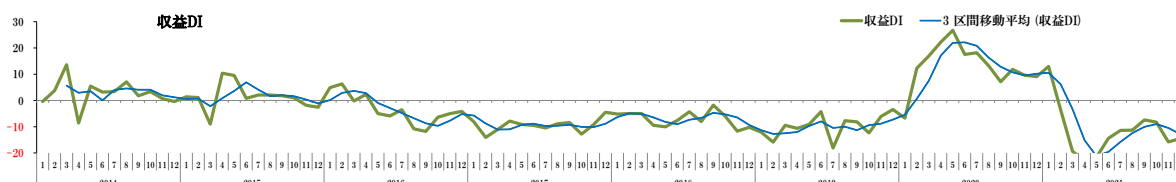
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	17.2	44.4	24.4	10.6	3.3	-15.4
売上高 (当月)	14.6	41.1	25.3	16.5	2.5	-12.2



2. 収益DI

ほぼ前月と同水準で二桁マイナス

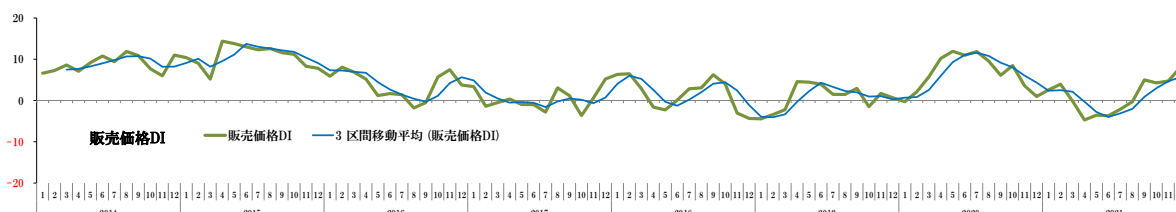
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	17.0	43.2	27.3	10.8	1.7	-15.8
収益 (当月)	18.1	38.7	28.4	12.9	1.9	-14.5



3. 販売価格DI

上昇傾向続き4か月連続のプラス

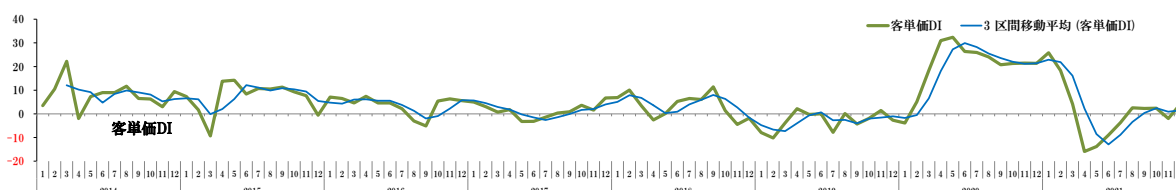
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	10.6	60.0	29.4	0.0	4.7
販売価格 (当月)	0.6	6.4	53.2	39.7	0.0	8.0



4. 客単価DI

前月から上昇しプラス転換

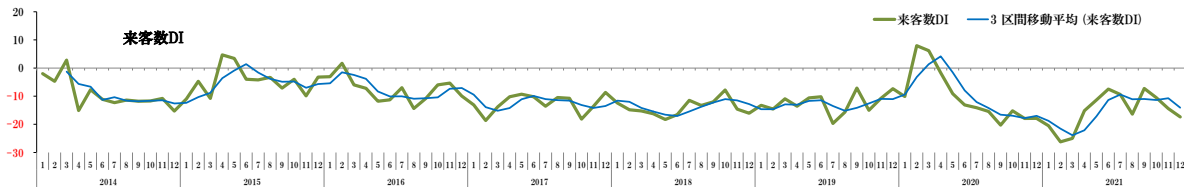
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	30.2	45.3	22.3	1.1	-2.0
客単価 (当月)	1.9	19.6	40.5	36.1	1.9	4.1



5. 来客数 DI

ややマイナス幅拡大、二桁マイナスで推移

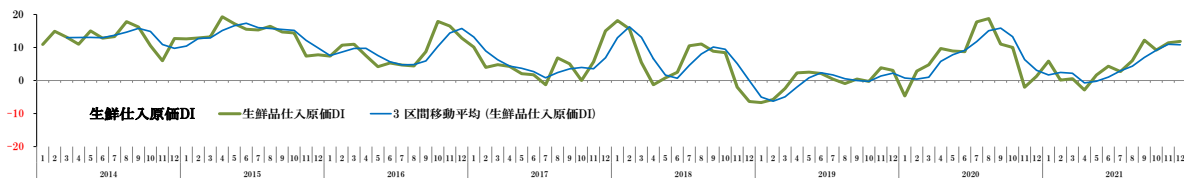
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	14.5	43.6	28.5	11.7	1.7	-14.4
来客数 (当月)	15.3	51.0	22.9	9.6	1.3	-17.4



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラス圏で推移

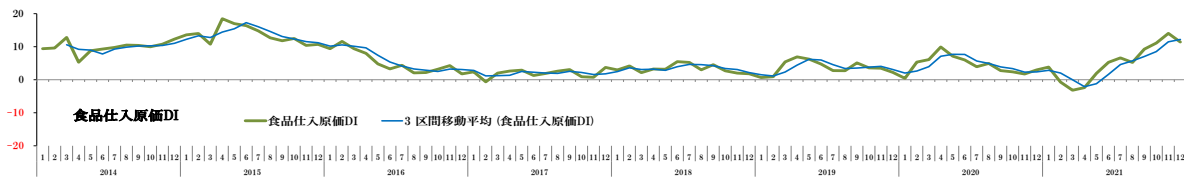
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	12.6	34.9	42.3	9.1	11.4
生鮮仕入原価 (当月)	1.3	9.9	34.9	48.0	5.9	11.8



7. 食品仕入原価 DI

二桁プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	5.1	34.7	50.0	8.0	14.1
食品仕入原価 (当月)	0.7	11.8	34.6	47.1	5.9	11.4

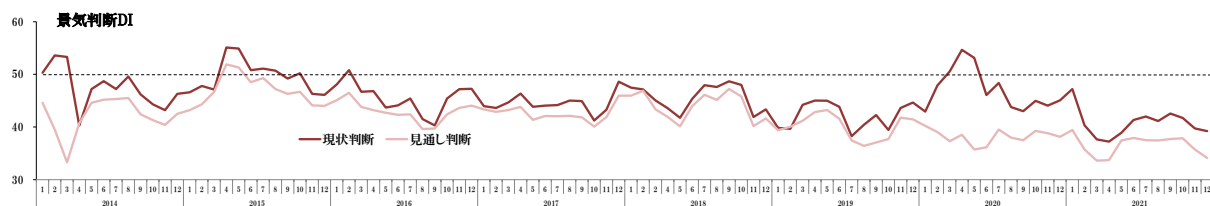


Ⅱ. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅に悪化

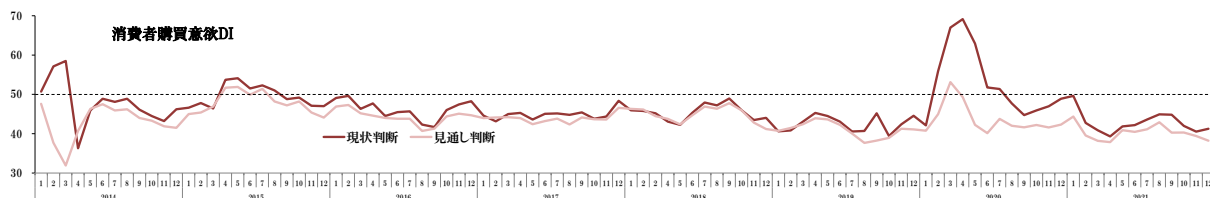
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	7.2	34.4	52.2	4.4	1.7	39.7
【現状】景況判断 (当月)	5.0	40.6	47.5	6.3	0.6	39.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.6	47.8	41.8	3.8	0.0	35.7
【見通し】景況判断 (当月)	8.2	50.3	38.4	3.1	0.0	34.1



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は小幅に悪化

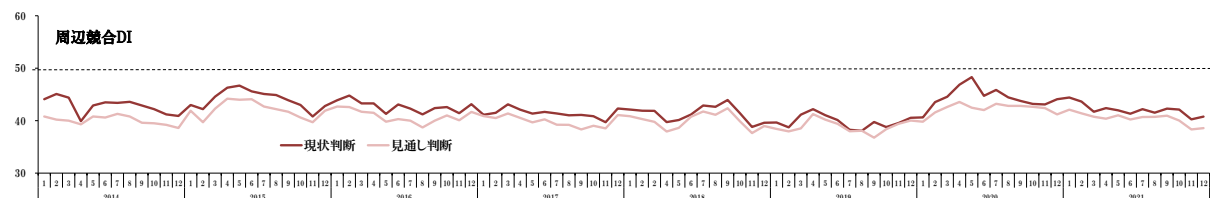
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	3.8	35.7	55.5	4.4	0.5	40.5
【現状】購買意欲 (当月)	3.1	37.5	51.3	7.5	0.6	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.2	42.3	51.1	4.4	0.0	39.4
【見通し】購買意欲 (当月)	2.5	47.2	45.9	3.8	0.6	38.2



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに前月と同水準

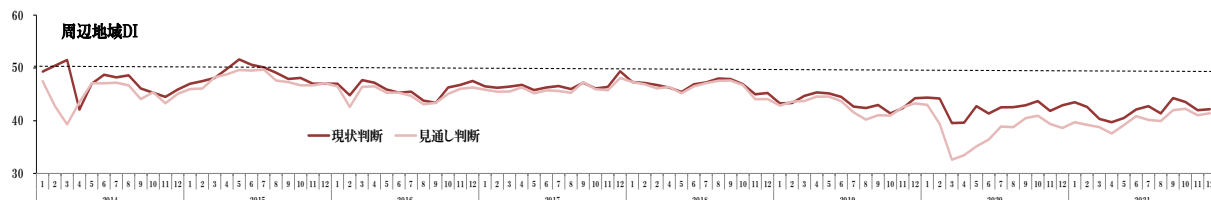
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.9	31.3	61.5	2.2	0.0	40.2
【現状】競合状況 (当月)	5.6	26.9	66.3	1.3	0.0	40.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.6	35.2	56.6	1.6	0.0	38.3
【見通し】競合状況 (当月)	8.1	30.6	60.0	1.3	0.0	38.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断ともに前月と同水準

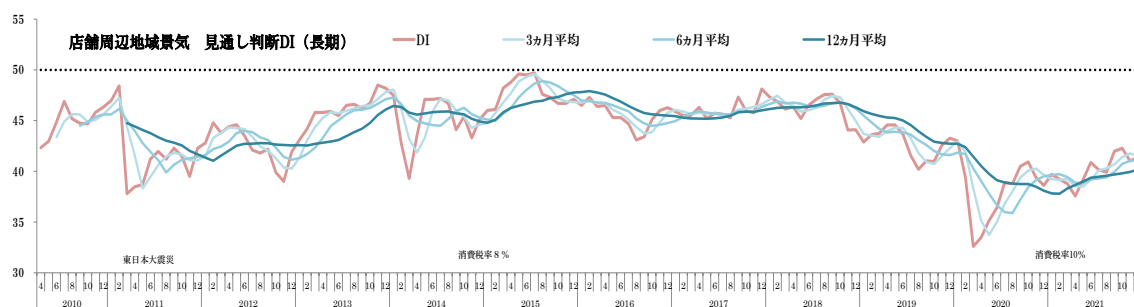
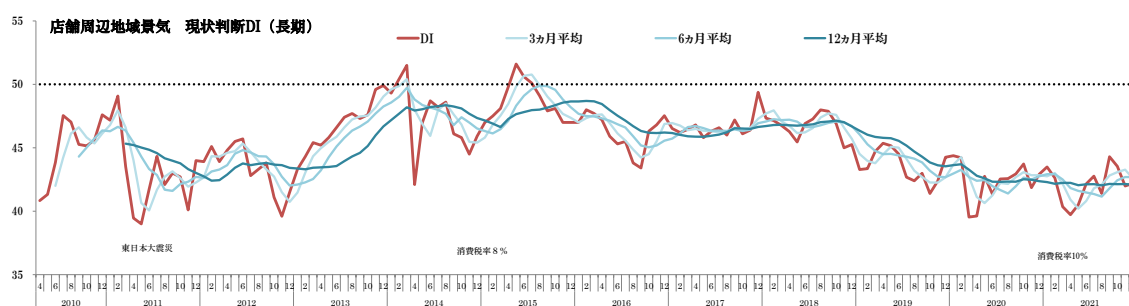
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	3.3	29.3	63.5	3.9	0.0	42.0
【現状】地域景気 (当月)	2.5	30.6	62.5	4.4	0.0	42.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	35.4	58.6	3.9	0.0	41.0
【見通し】地域景気 (当月)	1.9	34.4	60.0	3.8	0.0	41.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

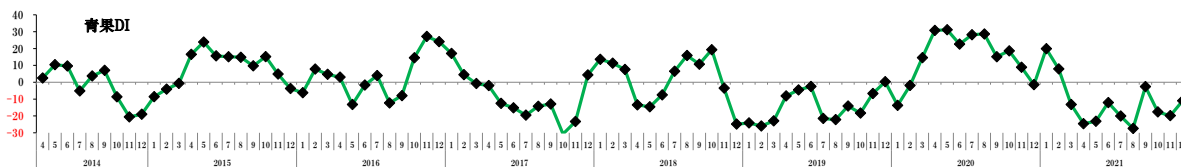
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月からは悪化するも、5月以降は小幅ながら改善傾向が続いている。その後、9月に大幅な上昇をみせ、各移動平均線を上抜きし、上昇トレンド入りを示唆している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-11.0（不調）

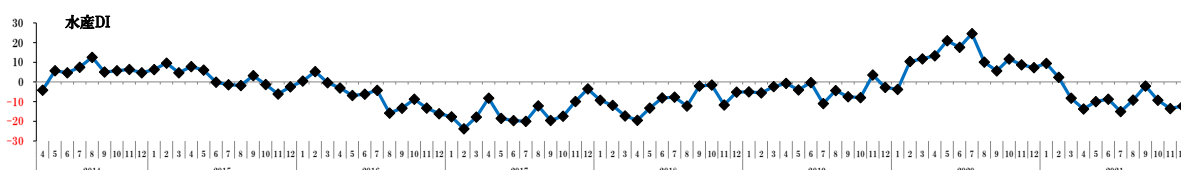
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	21.8	48.3	18.4	10.3	1.1	-19.8
青果（当月）	10.5	44.7	27.0	13.8	3.9	-11.0



感染の落ち着きにより内食需要に低下傾向がみられたものの、年末商戦は地方で帰省の回復を背景に好調に推移した店舗が多かった。飲食店など業務用需要も回復傾向が続いている。タマネギやじゃがいもなど土物類は相場高で好調となったが、葉物類は相場安で単価が下落し伸び悩んだ。前年に比べ気温が高く推移した地域では白菜、菌類をはじめ鍋物関連の動きが悪かった。国産果物ではみかんは好調に推移したが、イチゴは好不調が分かれ、柿やりんごは不調とするコメントが多かった。

2. 水産DI：-12.3（不調）

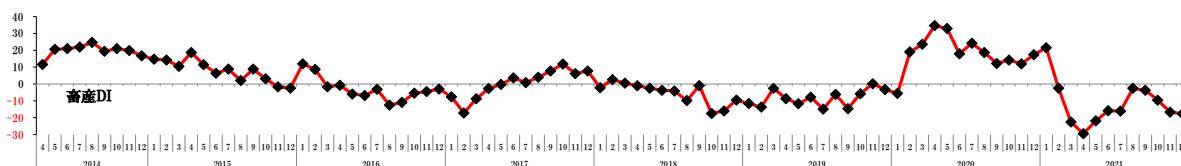
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	12.1	50.0	23.0	9.8	5.2	-13.5
水産（当月）	12.6	45.7	24.5	12.6	4.6	-12.3



感染の落ち着きにより、内食需要は低下傾向がみられたものの、年末商戦は帰省の回復も背景に刺身類、大型パックなどが好調に推移した。生魚の入荷が不安定なことに加え、漁船の燃料高騰、輸入品の高騰などもあり相場高となっており、販売に苦労した店舗が多かった。カニや輸入魚介類（鮭・えび・タコなど）や冷凍加工品、珍味の価格上昇が目立ち、販売数量を落とした店舗が多く、前年との気温差によりタラや牡蠣など鍋関連も動きが悪かった。ブリをはじめとする一部の魚種には、前年の農林水産省・緊急対策事業による補助からの反動減もみられた。

3. 畜産DI：-17.6（不調）

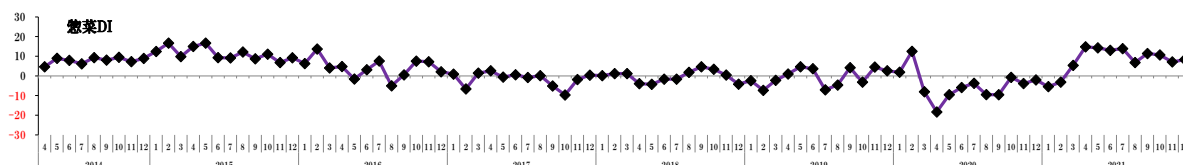
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	18.4	44.8	25.9	6.9	4.0	-16.7
畜産（当月）	22.9	41.2	20.9	13.7	1.3	-17.6



内食需要の落ち着き、販売数量の減少傾向が続いているが、年末商戦では和牛など高単価商品や大型パック中心に好調に推移した。月を通じて国内産、輸入品共に価格高騰が続いており、販促も打ちにくく、伸び悩んだ。前年より気温が高く推移した地域では、すき焼きやしやぶしゃぶ、鍋関連商材が低調となった。鶏肉は、今年は鳥インフルエンザの風評等の影響が少なく、好調に推移した。ハムなどギフトは不振となった店舗が多い。

4. 惣菜DI：8.3（やや好調）

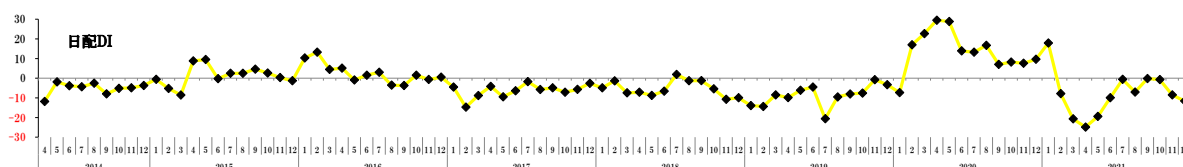
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.0	18.3	36.1	32.5	10.1	7.1
惣菜（当月）	4.0	17.2	31.8	35.8	11.3	8.3



クリスマスが週末と重なり、チキンなどの販売が大幅に伸長した。また帰省客の回復により、年末商戦では寿司やオードブルなどの大型パック、おせちの予約販売が好調となった。都市部では通勤再開などで夕方以降の人流が増加し、夜間売上の回復傾向も続く。寿司類は引き続き好調、揚げ物類も好調とのコメントが多い。近場への行楽や小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移。家飲みの、焼鳥やつまみ類も好調が継続。

5. 日配DI：-11.6（不調）

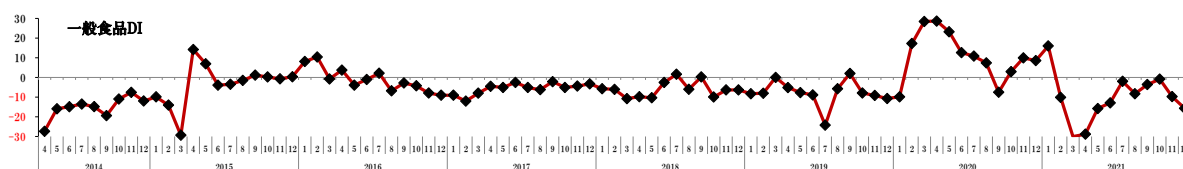
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.8	37.4	35.6	11.5	5.7	-8.5
日配（当月）	11.1	41.2	32.7	13.1	2.0	-11.6



前年に比べ内食需要に落ち着きがみられ、全般的に買上点数が伸び悩んだ。利便性が定着した冷凍食品や、デザート類は引き続き好調に推移した。和日配は、年末商戦は好調に推移したものの、前半高めの気温の影響でこんにゃく、練物、豆腐など鍋物関連が伸び悩んだ。漬物は青果相場安の影響もあり不調。アイスは前年を超過したが、乳製品は特需の反動減がみられた。卵は相場高が続き単価が大幅に上昇した。

6. 一般食品：-15.7（不調）

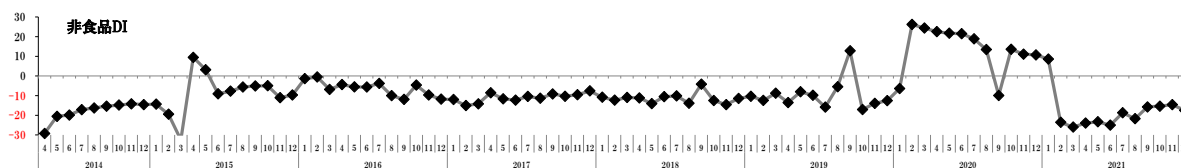
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.9	40.8	29.3	14.4	4.6	-9.8
一般食品（当月）	17.0	46.4	19.6	16.3	0.7	-15.7



内食需要に落ち着きがみられ、保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など）は伸び悩んだ。値上げのあった油や調味料は単価上昇となり好調に推移した。上旬は気温が高く推移したことで水、飲料が好調、反面鍋関連やホットメニューは伸び悩んだ。家飲み需要にもやや落ち着きがみられており、酒類や珍味などのつまみ類は伸び悩んだ。米類は相場安により売上を確保できなかった。飲食店などの業務用需要に回復傾向が続いている。ギフトは低調となった。

7. 非食品 DI：-17.4（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	20.8	34.1	30.6	11.6	2.9	-14.6
非食品（当月）	23.5	36.2	28.2	10.7	1.3	-17.4



前年に比べ前半の気温が高く、冬物商材の動きが悪かった。マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は前年からの反動が続いている。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品についても反動減が大きい。日用雑貨、家庭雑貨には回復傾向がみられた。値上げのあったタバコ類は前年並みに推移した。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2022年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 年末商戦、クリスマス商戦好調
2. 前年に比べ内食需要減少
3. 前年に比べ気温が高い

（参考）2021年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 帰省客減少（年末は自宅で過ごす）
2. 気温低下（平年以下、前年暖冬の反動）
3. 青果相場安

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12月実績速報版 160社
 11月実績確報版 182社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp